

9 月 3 日 年間第 22 主日

自分を捨てなさい

マタイによる福音書 16 章 21 ~ 27 節

²¹ このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。²² すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」²³ イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」²⁴ それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。²⁵ 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。²⁶ 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。²⁷ 人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。」

他の朗読：エレミヤ 20:7 ~ 9 詩編 63:2 ~ 6, 8, 9 ローマ 12:1, 2

Lectio … 読む

自分がメシアであることを弟子たちに表した後で、自分はエルサレムのユダヤ人の指導者たちによって殺されることになっていると言い、イエスは弟子たちを驚愕させます。このことについてイエスが弟子たちに話す機会は 3 回ありますが、本日の箇所はその最初です（マタイ 17 章 22、23 節、20 章 17 ~ 19 節参照）。

弟子たちには何のことか分かりません。何世紀にも渡る古いユダヤ人の救いの希望であるメシアが、ユダヤ人の指導者たちによって拒絶され、殺されるなどということがどうしてありうるのでしょうか。神がそのようなことをお許しになるのでしょうか。何が問題になるのか。どうしてメシアが苦しむのか。多くのユダヤ人にとって苦しみは、罪と神の裁きに関係するものとして捉えられていたのです。教会が建てられる岩、と言われたペトロは、今や崩れやすい砂になってしまいます。ペトロは、自分の恐れとイエスへの不満を口にします。「そんなことがあってはなりません」と。イエスは、荒野で誘惑されたときにサタンに直接言ったことを繰り返して、強い叱責で答えます（マタイ 4 章 10 節）。イエスの叱責の強さは、イエスの前にある誘惑の深刻さを示しています。

十字架を背負うこと、自分の命を捨てることによって自分の命を救うことができると、イエスがさらに話したことで、弟子たちの混乱はますますひどくなったことでしょう。私たちは復活後の出来事を見る恵みを受けているので、イエスのために私たち自身の命を捨てることについてイエスの言葉の深い真実を理解することができるのです。

イエスは弟子たちに 2 つのかすかな希望の光を示します。始めに、イエスは復活するであろうということ（21 節）を告げ、そして人の子は御父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのであると告げるのです（27 節）。

Meditatio … 黙想する

弟子たちは、イエスがここで言ったことにより非常に混乱したでしょうが、従うことを止めませんでした。このことから私たちは何を学ぶことができるのでしょうか。

イエスが「わたしのために命を失う者は、それを得る」と言ったとき、何を意味したのだと思います

か。このことは、あなたの毎日の生活の中で何を意味するでしょうか。

Oratio … 祈る

苦しみと死に至るまで、イエスは御父の御旨を行う準備が出来ていたことに感謝しましょう。謙虚に神の前に出てみましょう。日々神に従い、自分自身の快適さよりも神に喜ばれる生き方を選ぶことができるよう、神の恵みを願いましょう。

Contemplatio … 観想する

ローマ 12 章 1、2 節を黙想してみましょう。

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」